第５節　連携・協働分野　教育・パートナーシップ

環境基本計画　目指す姿（長期的な目標）

全ての人が環境を学び、考え、行動することで、
環境施策に「協働」で取り組んでいるまち

関連するSDGs

分野別評価指標の現状と目標

指標	基準（R元実績）	現状（R5実績）	目標（R12）
生物多様性関係団体数	15団体	15団体	のべ150団体（10年間）
地球温暖化対策に関する出前講座のメニュー数	6講座	6講座	10講座
市民との協働による森林整備面積	10 ha	10 ha	13 ha

1　環境教育の推進、環境意識の向上

（１）環境教育・環境学習の実施状況

市では、環境に関する市民等の意識や関心を高めるため、学校や地域の団体に対して環境教育・環境学習事業を実施しています。

令和５年度は延べ17回477人に対して、自然観察や省エネなどに関する学習を行いました。

表 3-41　令和５年度 環境教育・環境学習事業実施状況

ジャンル	プログラム名	参加人数（回数等）
自然環境保全に関する取り組み	石狩の自然と保全	477人（17回）

（市自然保護課実施分）

（２）環境展示

市民の環境に対する興味・関心を広げてもらえるよう、市では環境展示を実施しています。令和５年度は、６月に「環境月間パネル展」を開催したほか、８月から12月にかけて市内５か所の公共施設を巡回する「環境普及啓発パネル展」を開催しました。

表3-42　令和５年度 環境展示実施状況

日程	場所
６月１日～13日	石狩市民図書館エントランスホール
８月21日～31日	浜益支所１階ホール
９月15日～25日	道の駅（あいろーど厚田）２階展示スペース
10月10日～17日	花川南コミュニティセンター１階ロビー
11月17日～24日	花川北コミュニティセンター１階ロビー
11月29日～12月15日	石狩市役所本庁舎１階展示ロビー

（市環境課実施分）

（３）GIS を活用したオープンデータの取り組み

本市は、豊かな自然環境を有し、多種多様な動植物が生息・生育しています。自然環境調査などで蓄積している市の貴重な動植物情報をデータベース化し、公開可能な情報はオープンデータとしてまとめ、令和３年３月に「石狩市環境情報等オープンデータポータルサイト」を公開しました。また、クマ出没情報や交通事故、不審者情報等のみなさんの生活環境に関わる情報も、このサイトで閲覧・活用することができます。

https://environment-ishikari.hub.arcgis.com/

図 3-42　石狩市環境情報等オープンデータポータルサイト

2　様々な主体との連携・協働

（1）いしかり・ごみへらし隊

ごみの減量やリサイクルの推進は、市だけでできるものではなく、市民・事業者・市がそれぞれ自らの問題と考え、連携して取り組む必要があります。

「いしかり・ごみへらし隊」は、市民・事業者・市が一体となって、ごみの減量のために何ができるのかを話し合い、できることから実際に取り組みを進めていくことを目的に、平成13年９月に発足しました。

令和５年度は、隊員と市の担当者が連携を図り「作戦会議」を開催するなど、ごみ減量について協議を行うと共に、市広報誌の原稿作成に取り組んできました。

表 3-43　令和５年度 ごみへらし隊の活動内容

活　　動	内　　容
「ごみ減量のげん太くん」の市広報への連載	市民にお知らせしたいごみに関する色々なことを４コマ漫画で表現し、市広報誌に掲載 ・H21.12～毎月

※例年実施しているエコ体験ツアーは、新型コロナウイルス感染症対策により中止

（2）花いっぱい運動

住み良いまちづくりを推進するため、市が花の苗を助成し、市民が道路植樹帯や公園などに植栽を行っています。

令和５年度は、ペチュニアやマリーゴールドなど41,965株を植栽しました。

また、花いっぱい運動に参加した団体の中から花壇コンクールへの募集を行い、応募した団体を対象に審査及び表彰を行いました。

（3）石狩川歴史の森植樹祭

先人の偉業をたたえるとともに、人と自然のふれあいの場となる「石狩川歴史の森」をつくるため、ＮＰＯ法人近自然森づくり協会　岡村 俊邦理事長（北海道科学大学名誉教授）の指導のもと、札幌河川事務所などと協力して茨戸川河川敷地で植樹を行っています。この計画では20万本の植樹を目標に掲げており、令和５年度は、緑化団体など42人が参加して、20種250本の植樹を行いました。

（4）市民参加による森づくり

本市の重要な水産資源を守り育てるため、厚田区においては漁協女性部による「お魚殖やす植樹活動」や、森林ボランティア団体のクマゲラ、やまどり等による「あつたふるさとの森」への植樹活動、浜益区においては浜益魚つきの森推進協議会による「浜益魚つきの森植林活動」等が実施されています。

また、市と市民による森づくり協働事業としては、平成22年度から「キノシュ木育里親運動」をクマゲラと実施しています。この事業は、ミズナラやエゾヤマザクラの種子を市民に配布し育てていただき、発芽して１年程度経ち20～30㎝ほどになった苗を回収するという取り組みです。市民に育てていただいた苗は、育苗畑で更に１ｍほどになるまで育て、「あつたふるさとの森」の植林活動地域に植樹しています。